学校教育だより

まなびやまと

No.33
令和２(2020)年３月
大和市教育委員会

情報機器活用で深まる学び
～中1普通教室にプロジェクタ導入～
大和市立鶴間中学校

今年度2学期から大和市立全中学校1年生の教室に「プロジェクタ」が設置されました。実物投影機やコンピュータと接続し、様々なものを投影することができます。

11月6日（水）、鶴間中学校1年生の教室の黒板には、生徒が持っているものと同じプリントが大きく映っていました。行われていたのは地理の授業です。プリント学習が終わると、教員は動画の必要な部分を抜粋して再生したり、考えさせたい場面で一時停止をしたりして、生徒の思考や発言を促しました。

さらに、グーグルマップで日本と外国との位置関係を確認しました。目的地が映ると、「意外と広いね」「日本の真下（真南）だ」など、感想の交流が自然と始まりました。全員で一つの画像を見ることで、学びの焦点化と情報共有が円滑に行われていました。

個々の学習の際、生徒は、大きく表示されたタイマーで残り時間を確認しながら、限られた時間で活動に取り組もうとしていました。

授業後、生徒に感想を聞くと、「動画のおかげで勉強の内容がわかりやすくなった。大きく映るから、細かいところまでよくわかる」「黒板に直接映して上からチョークで書けるところが良い。自分たちも活用できる」と話していました。

教員は、「これまでは、画像の拡大コピーを持って教室内を歩いていた。そのたびに授業が滞りがちだったが、プロジェクタのおかげで授業がスムーズに流れるようになった。生徒の興味関心も高まり、学びの質が向上したように思う」と、その効果を話してくれました。

西舘校長は、「本校では、生徒が資料を提示しながらスピーチを行うなど、プロジェクタを効果的に活用した授業を積極的に行っている。2年生、3年生の授業では、移動式のプロジェクタが取り合いになるほど」と、その人気ぶりを語りました。

教員も生徒もその良さを実感しているプロジェクタ。学習への情報機器活用を通して、子どもたちの学びはいっそう深まりを見せています。

学校の歴史を感じて
～創立70周年記念式典～
大和市立林間小学校

11月19日（火）、体育館に林間小学校の全児童、教職員、保護者、来賓など多くの人が集まり、同校の創立70周年を祝いました。

第1部では、土佐野校長、70周年記念事業実行委員長の山本さん、大木市長から、お祝いの言葉がありました。

第2部では、「林間小のあゆみと未来へ向かって」というテーマで、6年生の児童が中心となって式典が進められました。教員と児童とで作成した「学校紹介」の動画に合わせ、音楽委員会の伴奏で校歌を歌ったり、学校に関するクイズをしたりと、どの児童も笑顔で楽しそうに参加していました。6年生から全出席者に向けて、歌のプレゼントもありました。スクリーンに次々と映し出される林間小学校の歴史を伝える写真をバックに、美しいハーモニーを響かせました。

最後は、ろうそくをイメージした色とりどりのペンライトが灯る中、全校でハッピーバースデーを歌い、林間小学校の70回目の誕生日を祝いました。林間小学校の歴史を知るとともに、「よりよくしていこう」という思いを新たにした式典となりました。

楽しく学ぶプログラミング
～放課後寺子屋 プログラミング教室～
大和市立西鶴間小学校

今年度より大和市立全小中学校で「放課後寺子屋プログラミング教室」が始まりました。

11月11日（月）、西鶴間小学校では1・2年生を対象として開催されました。事前に応募した25名の児童が、「スクラッチ」というソフトを使用してPC操作やプログラミングを学びます。キャラクターを動かしたり背景を変えたりと、誰もが自分の作業に没頭していました。完成作品の紹介の際には、多くの児童が自主的に手を止めて友だちの作品を鑑賞し、「すごいね」「それ、どうやったの？やり方教えて」と声をかけていました。

ICT支援員の辻さんは、「児童は自分の必要に応じて情報を収集しているので、『今は聞く時間ですよ』など、無理に手を止めさせることは極力しないようにしている。新しい動かし方を自力で見つけていく児童も多い」と話してくれました。児童は、「みんなと一緒にできて楽しい」「自分でプログラミングして、動いたり音が出たりするところが楽しい。またやりたい」と、意欲をのぞかせました。

身近な環境に目を向けて
～やまと みどりの学校 プログラム～

大和市では、環境教育の推進を目的とした「やまと みどりの学校プログラム」を平成16年度より実施しています。参加形式や内容は、学校ごとに様々です。今回はそのうちの2つの取組みをご紹介します。

〈エコキャップ回収活動
大和市立大和東小学校
大和市立南林間中学校〉

ペットボトルキャップは、資源の一つとして回収され、リサイクルされたり、各種支援金として活用されたりしています。

11月5日（火）の昼休み、大和東小学校の保健室では健康委員会の児童が、キャップの分別作業をしていました。規格外のものは避け、汚れたものは洗います。水道の水は冷たくなり始めていましたが、皆、一生懸命に取り組んでいました。洗ったキャップは、回収業者に送ります。児童は、「大変だけど、達成感がある。環境が少しでも良くなるのが嬉しいし、地球の役に立っている気がする」と、誇らしげに話してくれました。

同日の放課後、南林間中学校では福祉委員会が月1回のキャップ回収作業を行っていました。今年度は、回収250kgを目指して回収箱を校内に設置するほか、学校便りや行事を活用して保護者・地域への協力を呼びかけています。生徒は、「キャップは、（支援国の子どもの）ワクチンになる。私たちが買って届けることはできないけれど、キャップなら集められる。分別して洗ったペットボトルキャップを、近くの回収箱に入れてほしい」と、思いを話しました。

〈電気自動車体験
大和市立中央林間小学校〉

11月7日（木）、中央林間小学校の5年生が「電気自動車体験」を行いました。環境総務課の職員が電気自動車で訪問し、地球温暖化などの環境問題や、環境にやさしい「電気自動車」の特長について話すとともに、「環境を守るために自分たちにできることは何だろう」と問いかけました。児童からは、「ごみを燃やすと二酸化炭素が出るから、エコバッグを使う」「排気ガスや、エネルギーの使用量を減らすため、自家用車の利用を控え、公共交通機関を利用する」「リユースをする」「植物を育てる」「節電する」など、様々な意見が出されました。

校庭で電気自動車の乗車体験を終えた児童は、「本当に排出口がない。排気ガスが出ないから、環境に良い」「走る時の音が静かだし揺れも少ない。電気自動車はいいことだらけ」と感想を話し合っていました。

これからも、「やまと みどりの学校プログラム」では、子どもたちが環境について考える活動を支援していきます。

世界とつながる子どもたち
～国際教室・国際交流～
大和市立大野原小学校

〈国際教室交流会〉

7月12日（金）、家庭科室で「国際教室交流会」が開かれました。参加者は、国際教室で主に日本語等を学ぶ、外国につながりのある児童24名と、その保護者3名です。暑中見舞いはがきを書き、そうめんを調理するという日本文化の体験を通して親睦を深めます。

暑中見舞いの書き方について説明を聞くと、「『暑中お見舞い』って漢字で書きたい」と、難しい漢字に挑戦する児童もいました。友だちや保育園の先生などに向け、全員が心を込めたはがきを書くことができました。

そうめん作りでは、麺を茹で、青ジソを刻みます。授業を参観していた日本語教育アドバイザーは、「作業をしながら、近くの人に『沸くって何？茹でるって何？』と尋ねている児童がいた。日常会話の中にも、実は分からないことがたくさんある。このような活動があると、普段訊きづらいことも訊ける。動作に合った言葉を学ぶ良い機会だと思う」と話していました。

児童は、「みんなと一緒で楽しい」「家ではそうめんを食べたことがない。おいしい」「友だちに教えることができた」と満足そうでした。参加した保護者が「みんなで仲良くおいしいそうめんが食べられた。初めて暑中見舞いを書いた子もいた。良い経験ができた。自分もとても楽しかった」と日本語で感想を述べると、児童から大きな拍手が起こりました。国際教室の担当教員は、「外国につながりのある児童が日本語を介してつながり、日本文化の体験を通して違いを楽しむことや協力し合うことを学んでいる。今後も様々な活動を考えていきたい」と思いを語りました。

〈オーストラリアとの国際交流〉

11月27日（水）、6年生2クラスが合同で、西オーストラリア州バンバリー市のカセドラルグラマースクールと国際交流を行いました。インターネットを介したテレビ電話で相手校の児童と英語で交流する取組みで、大野原小学校は文ヶ岡小学校、引地台小学校、下福田小学校に続き、4校目の実施校となります。画面を通して初めて出会うオーストラリアの児童に向かって大野原小の児童が手を振ると、オーストラリアの児童も笑顔で手を振り返し、2つの国が身振り手振りでつながりました。

大野原小の児童が「好きなスポーツは何ですか」と英語で尋ねると、一斉に、様々な答えが返ってきました。「一緒に言われたらわからないよ」と言いながらも、自分たちからの言葉が伝わったことを、その場にいる全員が喜んでいました。

オーストラリアの自己紹介タイムでは、言葉の一つ一つに対して声援や拍手を送る大野原小の児童の温かい反応に、「自分も話したい」と挙手をする児童がどんどん増え、時間が足りないほどでした。

短い時間ではありましたが、子どもたちは世界とつながることの喜びを得たようでした。

新年への思いを込めて
～書き初め大会～
大和市立深見小学校

1月10日（金）、体育館に6年生が集まり、「心を落ち着かせて自分と向き合い、一年の初めの気持ちを文字に表そう」と、書初め大会を行いました。講師は、深見小の卒業生であり、教員として同校で勤務もされていた石川創一さんです。

児童は、自分たちの身長と同じくらいの画仙紙に、「新たな決意」と2枚書きます。年末から練習を重ねてきた児童は、講師の話を集中して聞いていました。担任の教員から、「1枚20分かけて書くつもりで」と話があると、児童からは「無理、無理」「すぐ終わっちゃうよ」と声が上がりました。しかし、いざ書き始めると、様子は一変しました。一文字書くごとに体を起こし、バランスを確認しながら書く児童、一画ごとにお手本と見比べながら書く児童など、誰もが真剣に自分の書と向き合っていました。

講師は児童の間を歩き、文字のバランスや筆遣いなど、適宜アドバイスをしていきます。自分の書が完成すると、児童は2枚を並べて眺めたり、友だちと互いの作品を見合ったりしながら、掲示する一枚を選びました。

児童は、「石川先生は、文字の中心をどこにして書けばいいかを教えてくれた。書いてみて、書写がうまくなったと思う」「今年は中学へ行く。『頑張ろう』という気持ちで書いた」と笑顔で話してくれました。

おらが学校

～地域の先生から学ぼう～

大和市立上和田小学校

上和田小学校は、校庭全面が芝生に覆われている、緑豊かな学校です。そして2～6年生は各学年2学級、1年生は単級という市内で最も小規模の学校です。そのため、全校児童に全職員が関われるあたたかさがあり、288名の児童が学んでいます。

10月31日（木）、6年生の音楽の授業に、講師として地域にお住まいの、尺八と琴の先生方が来校され、和楽器体験教室が行われました。

6年生の教科書で扱われている「春の海」などの耳慣れた曲の演奏が始まると、普段ふれることのない和楽器の音色に、みんな真剣に聞き入っていました。演奏会のあと、実際に楽器にさわり、琴をひいたり尺八を吹いたりと、貴重な体験をさせていただきました。

〈児童の感想〉

◇最初は琴を簡単だと思っていました。でも、つめの付け方から間違えて、教えてもらいました。楽譜はドレミファだと思っていたら、すべて漢字と数字で書いてあって、びっくりしました。でも弾き方がわかるので、すごい、なるほどと思いました。

◇尺八は最初全く音が出ませんでしたが、やっているうちにきれいな音が出て、とても嬉しかったです。でもひとつの音を出すだけで精一杯でした。あんな力強い音が出せて、先生方はすごいなあと思いました。

◇尺八と琴の共演は、私たちを和の世界に引き込んでくれました。実際にさわることができて、良い経験になり、とても感謝しています。

新学習指導要領では日本の楽器が重要視され、3年生から和楽器が取り上げられています。音楽室にある楽器は種類が限られているため、地域の方々のご協力が得られることはとてもありがたく、貴重であると思います。児童にとって多くの学びをご提供くださり、感謝の気持ちでいっぱいです。

上和田小学校は今年度創立48年を迎えました。これからも地域の方々の力をお借りして、児童と共に歩んでいきます。

地域の一員としてできること ～普通救命講習～

大和市立光丘中学校

12月3日（火）、「生徒に命の大切さについて考えさせるとともに、地域の一員としての視点を育てていきたい」と、普通救命講習が行われました。講師は、大和市消防本部の竹内さんと佐藤さんです。

会場の武道場には、2年生2クラスの生徒が緊張した面持ちで整列していました。初めに、講師から「人の命にかかわる大切な講習。素早い行動と、返事による意思表示を徹底して」と注意があると、場の緊張感はさらに高まりました。

前半は、心肺蘇生法の講習です。3人一組で人形の周りに座り、講師の指示に合わせて「胸骨圧迫」や「人工呼吸」などを行います。「肘を真っすぐ」「もっと深くまで押して」「口を縦に大きく開けて」など、講師から適宜アドバイスが入ります。

平成30年度、大和市は救急車の現場到着まで平均7分26秒（全国平均は9分）であり、その間、心肺蘇生を続けることが大切であるという話を聞いた生徒は、更に真剣な表情で何度も練習を繰り返し、手順に沿って一通りできるようになりました。

講師の佐藤さんは、「倒れたのが自分の家族なら、誰もが『助けてほしい』と願うはず。救急車が来るまでの間、周りの人が何もしなければ絶対に助からない。だから、いざという時に動けるよう、『どうすべきか』を知っておくことが大切」と、講習への思いを話してくれました。

後半はAEDの講習です。使用する際の注意事項が多くありましたが、生徒は集中力を保ちつつ、互いに声を掛け合いながら間違いのないよう取り組んでいました。

最後に講師の竹内さんが、「命を助けるために自分はどう動けばいいか、普段から意識していないとできない。遭遇した時に勇気を持って行動がとれることを期待しています」と話をしました。力強く「はい！」と答えた子どもたちの瞳は、とても頼もしく輝いて見えました。

「まなび やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

〈お問い合わせ〉 大和市教育委員会
指導室　260-5210
教育研究所　260-5213